
ギャグな勇者の奮闘記6

風太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ギャグな勇者の奮闘記6

【Nコード】

N3206S

【作者名】

風太

【あらすじ】

ギャグ奮を呼んでいればわかる

（前書き）

これと言っていない気がする

とまあ、俺はアルについて行ったわけだが

「アル、はつきり言って俺はS Mに興味は無いんだけど」

「はい、私にもありません」

即答ですか、でもねえ、アル、これははたから見たら立派な

「S Mなんですけどおおおおおお！！！！」

いやいやいや、アルよ、これはれっきとしたS MだよS Mプレイだよ、

何でおれちゃぶ台みたいなのに、大の字で張られてんの？とりあえずここはアルに交渉せねば・・・

「アル、俺はどうせなら攻めがいい、頼む変わってくれ」

「嫌です、私もどちらかといえば攻めなので、というか、まだ勘違いしてるんですか？、いい加減セクハラで訴えますよ、それに私、婚約者いるんで」

ホワイ？、ハワイ？、何を言っているんだこの穢ちゃんは、セクハラ？、婚約者？、後者の方は置いといて

「おいこら、俺がいつお前にセクハラした、言ってみろ」

「そうですねえ、普通の思考の持ち主なら出会いがしらに裸体を見せるという事がセクハラかどうか分かんと思います」

「えっと、それはですねえ「あ！すいません、普通の思考をお持ちでなかったですね、すいません、分かりやすく言つと裸体を見せつけるのはセクハラです。」

分かりましたか？」

やばい、何も言い返せない、完璧に逃げ道を奪われた、というか、完璧に俺〃変人の方程式が出来上がっている

「アルさん？、どうすれば許していただけますか？」

「そうですねえ、とりあえず、鼻から塩酸でも飲んでくれますか？」

許す気ねえええ！！、嫌！遠まわしに死ねって言ってるよ、

「私もだめです、この人心がきおらかじゃありません」

「だから、お前ら何なんだよ！」

まったく急に出てきて、好き勝手良いよって、ぶっ飛ばすぞ

「あら、威勢がいいじゃない、うち等はね勇者に力を与える精霊よ
私は水のウンディーネよろしくね」

「オリヤ、火のフリートだ！」

「俺・・・闇の・・・ダスク」

「光のソルです」

「雷のライトニングだ！」

なるほどなるほど、6人の内5人は分かったぜ

「おい、そのちっちゃいの名前は」

「風のシルフ、これで良い、めんどくさい」

何だこいつ、めんどくさがりかよ、俺にそっくりだな

「で。今回は誰が力与えんの？」

「俺はパスだな、そいつは熱くない」

「俺もパスそいつからはビートを感じネえからな」

「俺も・・・パス」

「私もパスです」

「実は言うとうちもパス」

「チヨイ待て！」

何なんだこいつら、パスパスパスと、俺を拒絶しおって、

「お前ら全員が力くれればいいだろうが」

「それができれば、うちらだってすぐにやってるわよ」

「ごめんね、勇者が得られる力は1つだけなの、分かった？」

「なるほど・・・って納得できるか!!」

それならなおさら俺に力よこせや

「俺が、やるわ」

「「「「「!!」」」」」

「？」

そうだったのはシルフだった

「サンキュー、シルフ、俺はどうすればいい」

「そうだな、俺に逆立ちして3回まわってう　こ食いてえといえ」
「よしわかった」

俺は逆立ちして3回まわった

「う　こういてえ」

「・・・ぶふう！！！！ホントにやりやがったこいつマジ受ける！」
「なぬ！！」

はめられたああああ！！、完璧にはめられた今思えばこいつは完璧に罠じゃねえか、テンションあがりすぎて冷静な判断を失ってしまった
つていたぜ

「まあ良いや、んじゃ契約の儀式を始めるぞ」

「・・・ゴク・・・」

「汝、風の力得し者よ、風のご加護があらん事を・・・」

「うわ・・・」

スゲー、体の奥から力がみなぎってくる、

「Will・May・grass」

その瞬間俺は光に包まれたそして

「うおお」

俺は、なんかちっばけな膝当てと肘当てそして胸当てみたいな鎧を着ていた

「どうだ、すごいだろう」

「黙れ、このエセ妖精」

「なぬ！」

「いいか、普通こう言うのはもっとこっぴつい鎧を手に入れるもんなんだよ、なのになにこれ、これは、

お前俺を舐めてんのか」

なんだよ膝当てって何だよ胸当てって、もっとかっこいいの渡せや
「何言ってるんだよ、これから試練を受けて、装備を強くするんだろ
う」

ああ、なるほど

「で、試練て何やんだよ」

「そうだな、第一の試練は、紅玉を手に入れる事だな」
「ふーんなるほどってん？」

「おい、第一の試練はここに来るまでの道のりじゃないのか？」

俺はそれで、死にそうになっただぞ

「はあ？、何言ってるんだよ、リノに送ってもらえたらうが」

お・く・っ・て・も・ら・っ・てねえっえっえっえっえっえっえ
っええええええー！！

「俺送ってもらってもらってねえよ、最初の試練とか言ってるこま
で死ぬ思いで来たんだぞ！」

やべ、泣きそう、あいつおれんことどんだけ嫌いなんだよ俺がそう
嘆いていると、シルフが俺の方に手をおいて

「ドンマイ」

ドヤ顔！、くそ！、こいつら何なんだよマジで、こいつらもいつか
殺す

「そんなことより、そろそろ、戻るみたいだな」

「？」

気がつくと、俺の体は光出していた

「それじゃ、頑張れよ、勇者」

「おう！」

そしてまた俺の意識は途絶えた

ギャグ奮？に続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3206s/>

ギャグな勇者の奮闘記6

2011年4月16日16時24分発行